

令和 6 年 第 2 回定例会一般質問

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	佐藤 智子	1. 新幹線トンネル 工事要対策土処 分地の問題	新幹線トンネル工事、要対策土受入地である黒岩C地区は、活断層の真上である。地震や豪雨などの自然災害に耐えるのか、第三者委員会で検討するよう八雲町として機構に求めるべきではないか。	町 長
		2. さらんべ公園の 桜に手当てを	<p>さらんべ公園の桜の木が病気ではないかとの情報が寄せられた。実際、見に行ったら、てんぐ巣病にかかっているようである。</p> <p>てんぐ巣病とは、枝から多数の小枝が生じ生育が悪くなる状態。糸状菌（カビの仲間）の一種で、その胞子により感染する伝染病。桜の花の付きが悪くなり、1本なるとほかの桜にも病気を広げ、枯れ木も増やすことになる。</p> <p>毎年、部分的なせん定や枯れ木の伐採はされているが、一歩進めて、さらんべ公園の桜を守るために樹木医に診断、手当てを依頼してはどうか。</p>	町 長
		3. 終活支援、八雲 町でも	<p>令和3年版の高齢社会白書によると、平成27年時点で65歳以上の一人暮らしの人は男性約192万人、女性約400万人となっている。現在はさらに増えていると予想される。家族がいない人が亡くなった場合、葬儀や埋葬をどうするのか。身寄りのない一人暮らしの人が安心して最期を迎えられるよう自治体がサポートする事例がある。</p> <p>神奈川県横須賀市では、終活支援を希望する人の登録を受け付けており、協力葬儀社に25万円を予納し、生前契約しておくことで基本的な送葬を行ってもらえる。同県大和市では、元気なうちに葬儀、納骨、遺品整理の生前契約等、相談体制が整えられている。八雲町にも必要なことかと思うが、考えを伺う。</p>	町 長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	倉地清子	1. ハンターの負担増の軽減と人材育成について	<p>近年、熊が市街地に現れ、畑を荒らすといった被害が頻繁にあり、また、人が襲われ、更に捜索に入った人までも襲われる事件が発生しています。最近も別海町での大きな被害があったばかりです。</p> <p>八雲町でもこのようなことが起こらないとは限りません。</p> <p>環境省は鳥獣保護管理法を改正し、条件を一部緩和する方針です。市街地への熊類の出没が増加する中、環境省では市街地での猟銃使用を一定条件下で緩和する運用が必要と判断されています。</p> <p>このように緩和がされていけば、捕獲頭数が増えていくことによるハンターの負担増が考えられます。</p> <p>現在八雲町では町の手厚い補助があって、ハンターの確保は充分と聞いておりますが、今後のハンターの負担、人数確保や個体解体処理を行う技術継承など、人材育成をどのように考えているかを伺います。</p>	町長
		2. 災害に強い八雲町を目指すために	<p>今年度から危機対策課が設置されたことは、これからの防災に大きな期待が持てることです。ただ、危機対策課は防災だけではないので、職員だけでは決して賄いきれない多くのことが存在していることを町民含めて全体で把握していくことが必要です。減災には数多く体験することは大事で、そのためには防災士の育成をし、町民の防災意識を高め、自ら防災に関わる人を育てていくことが大切です。他の市や町では防災士の育成補助を行い防災士ネットワークを作りながら、自主防災につながっているケースがあります。</p> <p>八雲町でも防災知識を学んで共助・自助活動ができる人材として防災士の資格取得の補助をし、防災へ向けての人づくりを進めていく考えはあるか伺います。</p>	町長

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
3	赤 井 睦 美	<p>1. 沿岸漁業の危機的状況への対応は？</p> <p>2. 町内コミュニティの強化を！</p>	<p>近年、八雲町では日本海側でも太平洋側でも魚が獲れなくなっています。原因は様々だと思いますが、ホタテ養殖をしていない漁業者にとっては死活問題で、出稼ぎに出ているところもあると聞いています。</p> <p>温暖化の影響も考えると、今後、以前の状況に戻ることは難しいと感じます。</p> <p>八雲町総合計画の主要施策に「経営基盤の安定・強化」があげられていますが、今のよう水産業の危機的な状況において、町としてはどのような対策をお考えでしょうか？また、熊石の水産試験研究施設の試験で、今の問題を少しでも緩和できる成果があれば教えてください。</p> <p>人口減少が加速化し、「消滅自治体」というショッキングな発表もされています。そんな中でも、各自治体は少しでも住みよいまちを目指して努力しています。最近注目されている「自治体の幸福度ランキング」を見ると、幸福度の高い自治体は、美しい自然環境に恵まれていることが多く、交通インフラや公共交通機関の整備も行き届いているようです。更に住民同士の交流や協力が盛んなところは、幸福度が高いことが分かっています。八雲町も中高生に八雲の良い所を聞くと、嬉しいことに『自然が豊か』『町民が優しい』という答えが返ってきます。ただ残念なことに、町内のコミュニティを見ると、町内会加入者の減少や活動の停滞が感じられます。今は何とか頑張っている方たちのおかげで成り立っている状況なので、その方たちと十分話し合いながら、早急に対応が必要だと思います。町内会の再編等はもちろん、町内のコミュニティそのもののあり方を多方面から検討し、住民同士が互いに支えあい、助け合える関係を検討すべきと思いますが、町長のお考えをお伺いします。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
4	大久保建一	<p>1. 少子化対策として婚活を</p> <p>2. 犯罪被害者等支援条例の制定を</p>	<p>民間組織「人口戦略会議」は今年4月に「消滅可能性自治体」を発表した。北海道内では65%超の117市町村が2050年には「消滅する可能性がある」とされた。</p> <p>もちろん八雲町もその中に入っており、自治体の存続と、社会生活を続けていくためには少子化対策は日本全体の急務である。</p> <p>八雲町はこれまで、子供の医療費や給食費の無料化など先進的な子育て支援を進めてきた。</p> <p>これらの事業は間違いなく必要であり、議会としても求めてきたものではあるが、少子化対策としては、間接的であり、少子化の改善には至っていない。</p> <p>そこで根本的な対策として、婚活に対する支援をしてはどうだろう。</p> <p>婚姻率が高まることは、町にとって様々な意味において良いことしかないと思います。</p> <p>婚活アプリ運営会社や婚活情報誌出版社等との協力関係を構築し、婚活イベントの開催や町公認アプリ利用料の負担助成など、自治体としてできることはあると思うが、町長の考えを伺う。</p> <p>2005年に施行された「犯罪被害者等基本法」では、犯罪被害者やその家族を支援するため、その権利保護を地方自治体の責務と規定したが、八雲町には未だその関係条例が制定されていないのではないかと。</p> <p>犯罪は起きないことが理想であるが、備えとして八雲町にも「犯罪被害者等支援条例」を制定するべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
5	三 澤 公 雄	1. 八雲町役場は“働きやすい職場”になっているのだろうか	<p>「精神的な病気を理由に休んだ職員」の数が令和4年は14人、令和5年は16人となっている。この値は「パワーハラスメントの防止等に関する指針」という内部規定を施行して以降、最大の値だ。</p> <p>令和元年9月に「ハラスメント規定法を基に条例を作るべき！」と質問したが、答弁では「国や近隣自治体の動向を見ながら考える」とあった。答弁以降、どのような検討がなされているのか伺う。</p>	町 長